環境体験学習支援

宝塚市立光明小学校3年・生きものつながりたんけん隊（秋季編）

＊日時：2015年10月8日（木）11：00～14：30
＊場所：宝塚市立宝塚自然の家
＊対象：宝塚市立光明小学校3年1組（堂山学級）　教師3名
＊ＭＮＣスタッフ：21名
＊学習の目的
　・絶滅危惧種のギフチョウの話を聞き、自然環境を大事にする大切さを知る。
　・アリジゴクとアリの姿から、生きていくことの一生懸命さを実感する
　・園内のいろいろな生き物を観察し、生きもののつながりを確かめる。
　・歴史民俗資料館を見学し、昔の農家の暮らしに触れる。

～スケジュール～

11：00　児童、宝塚自然の家到着
11：10　事務所前に集合・はじめの挨拶　　先生・木下
11：15　ギフチョウの話　　村上
11：45　アカシア広場で昼食
12：45　事務所前に再集合
12：45　園内たんけんに出発
　　1班～5班　事務所前→ギフチョウケージ→ハレーロボ→体験学習室→歴史民俗資料館→事務所前
　　6班～9班　事務所前→歴史民俗資料館→体験学習室→ハレーロボ→ギフチョウケージ→事務所前
　　→全員　事務所前→アカシア広場→多目的広場→松尾湿原→多目的広場
13：50　多目的広場でアリジゴクの話　　木村
14：20　児童感想発表と学習のまとめ　　先生・木下
14：30　終了

サルトリイバラ

～生きものたんけん～

今日の学習について

秋晴れのすがすがしい良いお天気。児童たちは、宝塚市内の他の施設での学習をしてから『宝塚自然の家』へ到着。待ち受けるMÑＣスタッフとは 6 月の仁川広河原以来の懐かしい再開である。挨拶をして、今日の学習について話を聞く。

ギフチョウの話では、生きものはそれぞれ住みやすい自然環境が必要であること。ギフチョウの食草のカンアオイの育つ場所が減ってしまったことなどからギフチョウが減少していること。宝塚自然の家では、ギフチョウを保護するために飼育に取り組んでおられることなどを学ぶ。

班別に、アカシア広場で昼食。

昼食の後、広場でアサギマダラを捕まえた児童がいたので、木村・木下さんよりアサギマダラについて移動性が強いこと等の話を聞く。緩やかに飛んでいる姿も見られた。

自然豊かな園内探検に班別に出発。秋の草木を観察し、食べることができるナツハゼなどの木の実があることも知る。歴史民俗資料館や体験学習館では、昔の農家のくらしや生活用具・農機具などを見たり使い方を体験したりして、昔のくらしの工夫や大変さを知る。多目的広場では、昆虫探しに一生懸命になりトンボやバッタなどを捕獲。松尾湿原では、秋の草花が多数見られた。

アリジゴクの話では、アリジゴクの一生について、手作りの紙芝居で学習を深める。アリジゴクの大きさやすり鉢状の巣のつくり方、エサの捕らえ方、成虫はウスバカゲロウであることも知る。児童は興味深く聞いていた。

児童感想発表と学習のまとめをして今回の生きものたんけんを終わる。

＜ ギフチョウの話 ＞

ギフチョウ

ギフチョウの話

カンアオイ

ギフチョウの蛹

＜　園内たんけん　＞

歴史民俗資料館

火吹きだけを使って

体験学習室

何かな

ナツハゼだよ

待って～

メジロの巣

カマドウマ

リンドウ

＜

＜アリジゴクの話＞

アリジゴクの話

アリジゴクのあな

アリジゴク

ウスバカゲロウ

＜　感想発表と学習のまとめ　＞

感想発表

さようなら　またね

児童の感想から

・知らないことを教えてもらってありがとう

・アリジゴクの話をはじめて聞いた。

・いろいろな虫を捕まえたり捕まえられなかったりした。

・虫を 2 匹しか捕まえられなかったけれど楽しかった。

・ハンドバッグを作ってもらってうれしかった。
・アリジゴクの中はどうなっているかわかってよかった。等

班分けと担当

3 年 1 組　堂山先生　児童38名

1班	多田・福田	6班	斎藤・水野
2班	沼田・石原	7班	加藤・中尾
3班	三橋・藤原	8班	坂本・小林
4班	松田秀・高橋・永井	9班	高山・吉田
5班	今西・小童		

総括：木下　　記録・写真：村上

春の有馬富士公園、夏の仁川広河原と今回で3回目の学習であった。子どもたちは、スタッフと和やかに会話をしながら意欲的に学習をしていた。秋空のもと、自然豊かな場所で子どもも大人も楽しく活動できたようである。スタッフの皆さまご苦労様でした。